

## 蘆花公園に行ってきました

蘆花公園に思い切って行って見ました。思い切ったと言ったのは、玉川地域から蘆花公園に行くのはあまり交通の便が良くないからです。今回は少し歩きましたが、三軒茶屋から世田谷線で終点の下高井戸まで行き、京王線に乗り換えて芦花公園駅下車。徒歩で「蘆花公園」に向かいました。途中に日本文学館があったり、お地蔵さんがあったり、爽やかな季節は歩くのも悪くないな、と思いました。初めての蘆花公園は思っていたのとはちょっと違ってとても居心地の良い公園でした。



### 蘆花恒春園

「蘆花公園」は正式には「蘆花恒春園」といいます。「不如帰」「自然と人生」などの名作で知られる明治・大正期の文豪、徳富蘆花（健次郎）と愛子夫人が、後半生を過ごした住まいと庭、それに蘆花夫妻の墓地を中心とした旧邸地部分とその周辺を買収してつくられました。蘆花は明治 40 年 2 月まで、東京の青山高樹町に借家住まいをしていましたが、土に親しむ生活を営むため、当時まだ草深かった千歳村粕谷の地に土地と家屋を求め、「恒春園」と称し、昭和 2 年 9 月 18 日に逝去するまでの約 20 年間、晴耕雨読の生活を送りました。園内では、徳富蘆花縁の住宅はもちろん樹木、墓地、書籍、原稿、書画、生活用具その他遺品が公開されています。「蘆花記念館」内には黒田清輝作の「浪子像」の他蘆花が旅順を訪ねた際に知人から譲り受けた「安重根書」も展示されています。



正門です。広く開放的です。



入った右手には竹林があります。



園内には美しい花が咲き乱れています



貴重な品々を収蔵「蘆花記念館」



幸徳秋水の大逆事件にちなんで命名された「秋水書院」。江戸末期の家を建て直した貴重な建物です。



植木屋さんが寄贈した身代わり地蔵



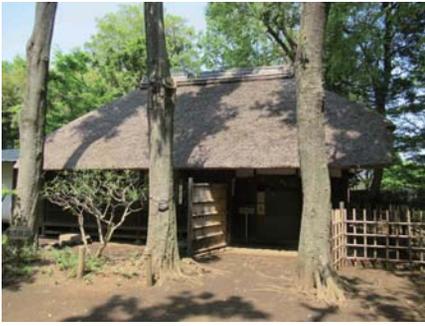
1909 年築の「梅花書屋」。ガラスの棧の模様が素晴らしいのと電球の傘がレトロ感たっぷり。これまた貴重な建築資料。軒下には竹の物干し竿が！



### \* てくたく刀サッチ #58 「谷沢川湧水池跡」と用賀 6-22 \*

谷沢川は用賀、上用賀地域の湧水や溜池を水源として大山道近くで合流、田中橋の下をくぐって中町、上野毛を通過して等々力渓谷を形成し、多摩川に流れ込んでいる全長 3800m の川ですが、その遊水池のひとつがここにありました。池の水は湧き出るといふより、世田谷通りの北側、東京農大の近くや宇山の方から流れ出た小川の水がここに溜ったという方が正しいかもしれません。池には葦が繁り木が 2 本生えた小島もあったそうです。鯉やウナギのほか小さな魚もいたので、近所の子供の格好の遊び場でした。また、この池の他に上用賀 4 丁目には「田頭池」という遊水池もありました。





母屋です。入口には電話番号が。撮影禁止ですが中に入れます。



集会場として使える愛子夫人居宅。



豊かな自然に囲まれた夫妻の墓所。



夏でも涼しいコナラ・クヌギの雑木群



園内にある子供向けの「草地広場」や「アスレチック広場」は近所の子供の人気スポットです。



広々としたドッグランは事前登録制。犬たちも思う存分走っています。



園内には健康遊具も設置されていて皆さん散歩がてら利用しています。



正門のそばにある「八幡宮」。祭神は譽田別名（應神天皇）です。



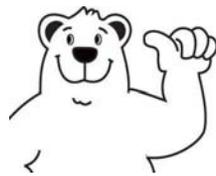
徳富蘆花粕谷入村 100 年記念碑



蘆花がここで訪問客を見送った「わかれの杉」



「芦花公園」駅から歩くと蘆花翠風邸の風格ある門や日本文学館。芦花公園西の三叉路の中心には元禄時代建立の「粕谷村地蔵尊」が。



## ご自宅まで配達します！ 2018 年 アサッチのオススメ本！ 4 月

### マツコの何が“デラックス”か？ 太田 省一著 定価：1404円（税込）

「共感・伝える力」の見事さにおいて、いまマツコ・デラックスを超えるタレントがいるだろうか？ 「食べる」「装う」「懐かしむ」……『中居正広という生き方』が話題になった気鋭の社会学者が、マツコを象徴する「動詞」に着目し、その唯一無二の魅力に迫る。

